

については、参加者から高い評価が得られ、今後継続・拡大してほしいとの要望が多く寄せられた。

④ 学生を対象とした連携事業の取り組み

「社会スタディの場」の構想案について意見を求めたところ、ほとんどの参加者から積極的な賛同が得られ、開催に向けた準備を進めることにした。

⑤ 情報処理推進機構（IPA）の汎用的教育コンテンツについて

IPAが昨年度開発した汎用的教育コンテンツ「ソフトウェア開発演習」、「要求工学問題発見、解決」、「情報セキュリティ、プロジェクト開発」に加えて、本年度開発した「ロジカルシンキング養成教育」の内容が紹介され、大学教育での活用がPRされた。

⑥ 情報交流会

約70名の参加を得て情報交流会を実施し、参加者から大学教育への提言を学内で周知して多くの教員に活用させるようにしたいとの意見や、教員インターンシップの取り組み拡大に期待する等の意見が多数寄せられ、本事業の継続・拡大に向けた期待が確認できた。

4-3 eラーニングによる教育支援の振興及び推進

<事業実施計画>

平成23年度にとりまとめた未来に立ち向かっていく志を持つ若者にイノベーションにつながる能力をネット上で支援する構想（「知の探求・協同学習サイバー・コンソーシアム」）についてアンケートを参考に構想内容の詳細化、具体化の検討を年次計画で進める。

<事業の実施状況>

23年度に「知の探求・協同学習サイバー・コンソーシアム構想」をとりとまとめた段階で「eラーニングオープン教育振興委員会」を廃止し、24年度からは新たな事業組織として「知の探求サイバー協同学習支援委員会」を設置し、構想内容の詳細化・具体化を目指して活動することを計画したが、委員会組織の人選に時間を要したため委員会を発足することができなくなった。そこで、25年1月の理事会において事業の実施を1年繰り延べることを確認し、25年度より事業を実施することになった。